つわの人物図鑑

■明治の啓蒙哲学者

【西　周（にしあまね）】 文政12年（1829）～明治30年（1897）

文政12年（1829）、津和野町森村で藩典医・西時義の長男として生まれました。12歳で藩校「養老館」に入学。江戸の藩邸でオランダ文典を学ぶと、西洋の学問を学ぶ重要性を痛感し、安政元年（1854）に決死の覚悟で脱藩。安政2年（1855）には幕府の蕃書調所の教師に。文久2年（1862）、幕命によってオランダのライデン大学に留学して国際法・経済学などを学び、3年後に帰国。明治維新後は新政府に勤務。福沢諭吉らと「明六社」を結成し、文明開化政策の推進に啓蒙的役割を果たしました。その後、東京学士院会長に選ばれたほか、東京高等師範学校の初代校長、貴族院議員にも任じられ、明治30年（1897）に68歳で亡くなりました。西周は「哲学」「心理学」「感覚」などの言葉をつくったことでも知られています。

■日本地質学の父

【小藤　文次郎（ことうぶんじろう）】 安政3年（1856）～昭和10年（1935）

安政3年（1856）、津和野町後田新丁で生まれました。藩校「養老館」で学んだ後、明治12年（1879）東京大学地質学科の第一期生としてナウマン博士のもとで地質学を学びます。明治13年（1880）、ドイツのライプツィッヒ大学、ミュンヘン大学に留学して地質学を研究。帰国後は東京大学地質学教授に就任したほか、日本最初の理学博士となりました。明治24年（1891）の濃尾大地震では断層地震説を主張し、このとき撮影された写真は世界中の教科書に採用されました。日本地質学の草分け的存在であり、東京学士院会員など、多くの要職を歴任。大正11年（1922）には東京大学名誉教授に。退官後も研究を続けましたが、昭和10年（1935）に79歳で亡くなりました。

■日本脳外科の父

【中田　瑞穂（なかたみずほ）】 明治26年（1893）～昭和50年（1975）

明治26年（1893）、津和野町後田上新丁で生まれました。大正六年に東京大学医学部を卒業。29歳のときに新潟医科大学（現・新潟大学医学部）に迎えられ、その後欧米に渡って最先端の医学知識を学んで帰国し、当時未開拓の分野だった脳外科の発展に尽くしました。昭和22年（1947）に『脳手術』、昭和24年（1949）には『脳腫瘍』を出版。昭和31年（1956）に新潟医科大学名誉教授となり、また同大学脳研究室の初代室長として研究を続けながら、人材育成にも力を尽くしました。昭和42年（1967）には文化功労者、日本学士院会員に。昭和50年（1975）、82歳で亡くなりました。

■ＪＡ厚生連の父

【大庭　政世（おおばまさよ）】 明治15年（1882）～昭和14年（1939）

明治15年（1882）津和野町須川に生まれました。明治35年（1902）、京都府立農学校を卒業。36年（1903）愛知県立農業試験場技手、40年（1907）大庭家の養子となり、41年（1908）帰郷。大正7年（1918）青原村産業組合長に就任した。同8年（1919）11月に青原組合病院を開設。これがわが国の産業組合に医療事業を創設した最初です。13年（1924）には助産事業を併設しました。同年、保証責任島根県信用購買組合連合会理事に就任。昭和4年（1929）、『農村産業組合経営論』を青原村産業組合愛村社から出版。同年、産業組合中央会島根支会講師を嘱託されて県内外の産業組合を講演指導しました。また、有限責任生糸販売購買組合連合会石西社創立理事。6年（1931）、有限責任石西利用組合共存病院創立理事でしたが、共存病院三代目組合長になり、その経営に苦しむなか、昭和14年（1939）公務のため上京の帰途名古屋で発病、57歳で亡くなりました。

■郷土の日本画

【伊藤　素軒（いとうそけん）】 明治9年（1876）～昭和31年（1956）

明治9年（1876）津和野町日原に生まれました。本名は猶一郎（なおいちろう）。明治32年（1899）、帝室技芸員今尾景年について日本画を修め、39年（1906）に上京、審美書院に勤務しました。41年（1908）渡米し、ボストン美術館の平治物語絵巻を模写。その後、エール大学美術学校などで洋画を修め、大正2年（1913）に帰国。大正14年（1925）「池二題」が帝展に入選し、鯉の名手として知られるようになりました。この他にも第5回内閣勧業博覧会に入選した「花」、東宮御所に教育普及会から献納した「新光」などの作品があります。昭和31年（1956）、81歳で亡くなりました。

山陰中央新報社『島根県歴史人物事典』より